

【事例検討会（ケースワーク）】

実際の相談事例についての検討会

参加者には、相談事例のレポート（定型様式あり）を全員ご提出いただきます。

全ての事例から2または3事例を取り上げ、アドバイザー（医師・エドゥケーター・社会福祉士（SSW・MSW）・患者児等）と参加者全員で一つ一つ丁寧に援助・対応について考えます。（守秘義務に相当する部分は事前にお問い合わせください。）

日時：3月14（土）13時30分～17時（受付13時15分）

会場：京都市国際交流会館 研修室（3階）

定員：20名（先着順）

参加費：500円（資料代）※会員の方は無料

参加要件：研究会公開講座やアレルギー大学、自治体等の実施する子どもの食物アレルギーとソーシャルワークについての基礎的知識の研修を受講済みの方

アドバイザー（予定）：楠隆・青山三智子・上原久輝（日本アレルギー学会専門医）
笹畑美佐子（小児アレルギーエドゥケーター）
空閑浩人（社会福祉士）
中村有美（スクールソーシャルワーカー）

相談事例によって、保育園・幼稚園・学校関係者のアドバイザーをお願いする予定です。

※参加要件に満たない方も、オブザーバー参加ができます。お問合せ下さい。

☆これまでのケースワーク事例☆

ケース1 病院選び

3か月男児 皮膚に赤疹。

母親がアトピー性皮膚炎・食物アレルギーに不安を感じている。結婚を機に引っ越してきた地域のため、病院の情報が得られないまま、近くの病院へ。乳児にも関わらず、かなり強めのステロイドが処方されており、スキンケア指導もされていなかった。

ケース2 幼稚園でのアレルギー対応

年長男児 エピペン所持（卵）

入園3年目。幼稚園は、これまでも食物アレルギー児の受け入れは数例あるが、エピペン所持の子どもは初めて。

年中児の時のクッキングでは、卵を使ったメニューのため、同室内で大きな積み木で区切られたコーナーで一人で本を読んでいた。今年になって、園長先生から「エピペン講習を医師から受けたい」と申し出があった。

ケース3 重度アレルギー児の中学校での対応

中1男子・エピペン所持

微量混入でアナフィラキシーを発症（小麦・卵）

小学校では対応可能だった給食が、中学校入学を機に不可となった。中学校は、今春管理職が2名とも異動となり、全教職員の関係性も再構築中。食物アレルギー対応への優先度は低い。

ケース4 発達障害を伴う食物アレルギー児

年少男児・エピペン所持（卵・乳・小麦・大豆など）

顔面・身体に激しく掻きむしった跡がある

主治医は地域の病院、負荷試験はF病院。F病院の担当医（アレルギー専門医）は発達障害も専門であり、発達障害の傾向ありと考えている。

発達障害からの「こだわり」によるものと思われる、極度の偏食があり負荷試験が進まない。保護者は、限られた材料で工夫してごはんを作るが、白ごはんしか食べないため、食事作りの「甲斐」が感じられず、かなり疲れている。

◆お問合せ・お申込み◆

認定NPO法人F a S o L a b o 京都（食物アレルギー相談援助研究会委員会）

メール：office@allergy-k.org（件名に【研究会】と記載してください）

TEL/FAX：(075)252-5088（月・水～土）10:00～16:00

HP：http://www.allergy-k.org（相談援助研究会のバナーよりお申し込み下さい）

右のQRコードよりHPへ直接アクセスできます。

〒604-8273 京都市中京区姉西洞院町542 サンフィールドビル3階

